



鳴滝園設立二十五年間を振り返つて

園長 岡山 久代

知的障がい者施設として開園し二十五年目を迎えた鳴滝園です。

平成元年設立の準備に入り、最初に必要とされた地元の了解を得るために代表者の方々に集まつていただき頭を下げてお願ひしました。

まだまだ精神薄弱者と呼ばれていた時代です。彼らを見る目は厳しく不安もあってか全員から快い返事を得ることは難しいものがありました。また、水利権者の許可も必要とされ浄化槽から出る水であっても十二キロ離れたアユの養殖場まで出向きました。お願いしたことが思い出されます。

平成十一年精神薄弱者という用語が知的障害者に変更され障害の定義も大きく整理されました。しかし、呼び名が変わつても地域の人達の反応に何ら変化は見られませんでした。

開園から五年後山口市に初めてグループホームを建設しました。「障害を持つても地域の中で普通に暮らす」という理

念を鳴滝園は大きく掲げていたからです。

早速施設近くの田が整地されためその一角に建設の準備にとりかかったところすぐに隣人となる方から反対の声があがりました。「もしわが子が障害児であつたなら人里離れたところに預けて帰ることができるでしょうか」と祈る気持ちでお願ひしましたが「そのほうが幸せだと思います」と言われ胸が締め付けられる思いがしました。

しかし、グループホーム建設をあきらめることができず私をはじめ借家住まいの職員もグループホーム近くに転居し、すぐ駆けつけられる環境を整えました。実践を通してこの人達を知つてもらい理解を求めていくしかないと思つたからです。効果はすぐ出てきました。雷の鳴る大雨の日、いつの間にか子供たちの方からグループホームに駆け込んでくるようになります。小さな子供達に悪さをされた大人達でしたが夕方遅く仕事を

を終え迎えに来られたお父さん、お母さんの目に映つたのは仲良くテレビを見ているわが子の姿でした。その光景に彼等への偏見と誤解は一瞬にして消え去りました。

こうして鳴滝園は一軒づつ地域の中にグループホームを増やしていく様度に理解が深まりました。現在反対に一人サ高住からなる車椅子状態になつて毎日入浴が出来清潔が保たれます。現在反対に一人サ高住から鳴滝園に通所されている利用者さんがいらつしやいます。今まで3人部屋の入所施設であった今は個室で好きなテレビ根をきれいに刈り整えて下さりそれを見られた方が今度は庭木の剪定をして下さいました。秋のバーベキュー祭りには百八十名近い人が集まって利用者さん達と共に賑やかで楽しい一日を過ごすことが出来ました。また、近くにある小学校からは福祉体験授業として、利用者さん達と一緒に作業をしてもう、障害のある人への理解と思いやりを育んでもらつていま

す。小学校の音楽会にはこちらから出向き吹奏楽の演奏を披露し互いに意義ある交流が出来ていています。今年は最後の念願であった高齢者施設を建設することができます。「地域の方々が住み慣れた小鯖の地を離れることなく老後も安心して楽しく暮らして頂きたい」との思いから建設されたものです。メニューの中に入所デイサービスも併設されが厳しくなった利用者さんもグループホームから通所できるよう整備しました。浴槽も機械浴がある為車椅子状態になつても毎日入浴が出来ます。現在反対に一人サ高住から鳴滝園に通所されている利用者さんがいらつしやいます。今まで3人部屋の入所施設であった今は個室で好きなテレビを見たり音楽を聞くことが出来ると嬉しそうです。また初めての工賃を手にして大喜びしている姿に今は亡き母に見せてあげたかったと妹さんが涙されました。現在訓練型(生産系)の施設は随分と少なくなりました。当園もサービス事業の変更も考えましたが今日のような出来事に出会うと「これでよかつたのだ」と改めて納得しました。もう少しの間、働いているからこそキラキラ輝いている利用者さんの姿を見たいと思っています。今年は最後の念願であった高